

# 園のおたより



第 6 号

令和 6 年 1 0 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

## うんち

### 園長 関 由起子

10月のはじめ、教育実習生のAさんは「食べ物と体の状態との関係」をテーマに、3組さんに「よいうんち、わるいうんち」のお話をしました。3組さんは大喜びで、学生さんが作成した段ボールのうんちを嬉しそうに眺めたり、触ったり。実習生の「よいうんちの形は？」の質問に大声で「バナナうんち」、悪いうんちは「べちょべちょ、コロコロうんち」としっかり答えていました。

うんちが大好きなのは、1組さんもおなじで、いつもBくんは「ぼくはうんちくん」とニヤッと笑って教えてくれます。そして、うんち大好きは小学生も一緒です。「うんこドリル」は大ヒットし、小学生に心肺蘇生法とAEDの使い方を広めるために、私達大人は、心肺蘇生法の「うんこドリル」バージョンを作ろう！と安易に思いました。そして、うんこドリル救命（AEDの編）が出来上がり、先日作成者と出会ったときには感激して思わず名刺交換してしまいました（このドリルに興味がある方は是非次のURLをクリックしてください [https://world.unkogakuen.com/lifesaving\\_aed/](https://world.unkogakuen.com/lifesaving_aed/)）。

ここまで子どもたちのうんち好きを述べてきましたが、医療従事者もうんちを愛しています。なぜなら健康のバロメーターであり、患者さんのうんちの状態に一喜一憂し、良いうんちを求めて様々な医療やケアを行います。子どもの腹痛の原因の大半は便秘です。娘が小さい時、毎朝お腹が痛いとしゃがみ込むのですが、100%トイレから出てくると腹痛は治りました。そして、娘のうんちを毎日眺めては、健康であることを確認していたなあと思い出しました。

けれども、中学校に入ると急速にうんちを恥ずかしく思い、語らなくなります。埼玉大学の養護教諭養成課程の学生Cさんも、保健の授業で恥ずかしそうに「うんち」と言っていました。ある日、医療者でもあるわたしが大人の集団の前で何気なくうんちについて熱く語っていた時、周りの雰囲気違和感を覚え、慌てて話を逸らせたことがありました。多くの大人が便秘に悩まされている現代、なぜそんなに大切な「うんち」を嫌うのかと強く疑問を抱きました。そして、そういえば毎日トイレで娘のうんちを確認し、「バイバイ、バナナうんちさん」と言いながら水を流していたにもかかわらず、娘のうんちを見たのは、いつが最後だったか思い出せないことに気づきました。4月に前PTA会長様が、「お子様と手をつなぐのは人生のこの時期のみ。次に手をつなぐのは自分が老人となり介護を受ける時」とおっしゃっていたことを思い出しました。もしかしたら、「うんち」の観察も同じかもしれないと、大発見をしたつもりになりました。

ここまで、人生で一番多く「うんち」という文字を入力してきましたが、今回私が言いたいことは、「うんち」について素直に語れる時期は幼少期であり、うんちを汚いもの、忌み嫌うものとして捉える前に、たくさんうんちと健康について親子で語ってほしいと思います。そして大人になっても、健康のためにうんちとの対話を続けてほしいと願っています。



## 「せかい」のこと

副園長 小谷 宜路

先日の運動会の開会すぐにも歌った『うんどうかいのうた』。歌い出しは「せかいじゅうのはたが そらに ゆれてる♪」という歌詞です。「運動会」に関する歌詞で「世界中の旗」と言えば、いわゆる万国旗をイメージする方も多いかと思います。私も、この歌を初めて知った時には、青空に各国の旗がなびいている場面を想像しました。

幼稚園の運動会当日には、こどもたちが描いた旗を、園庭に飾りました。事前に2組でその旗の絵を描いた時に、次のようなやりとりがありました。『うんどうかいのうた』をみんなで歌った後、「幼稚園には“せかいじゅうのはた”が無いけれど……」とこどもたちに投げかけてみると「ハートとか」「リボンとか」「虹でしょ」と、自分の好きな「せかい」について、言葉にする人が続いていきました。絵を描き始めるまで、「私は、海にする」「私は、虫にしようかな」などと、一枚の旗にどんな「せかい」が広がったら素敵かを、友達と嬉しそうに会話する姿がありました。いくつかある旗用の紙の色を選んで、さっそくクレヨンで描いていきます。描いている途中でも、描き終えた後でも、それを保育室内に飾った後でも、自分の描いた「せかい」について、それぞれの人が教えてくれました。

私が歌詞からそのまま万国旗のような「世界中の旗」をイメージしていた中、こどもたちの方では、本当にいろいろな「せかいじゅう」をイメージしていたのでした。描く前にたくさんの「せかい」が言葉として出された後には、「でも、まだ、たりないよ」「もっと、いろいろあるよ」と、無限に広がるような「せかい」をイメージしている会話も聞かれました。今、こども時代を生きている人たちにとっての「せかい」の豊かさ、単なる人間が区分した世界ではなく、自分が生きている周りに広がっているであろうすべての世界があって、「せかいじゅうの」という歌詞を捉えているように感じられました。

運動会の「みんなであそぼう！」では、3組の5つのチームが、それぞれに冒険のイメージを広げて、動きコースを考え、つくりました。一つ一つが、こどもたちにとっての新しい「せかい」の具体化なのだとも感じました。こどもたちが今生きている世界、そしてこれから生きていく世界が、いつも豊かなものであってほしいと思います。今年の運動会までの保育を通して、「せかい」の捉え方について改めて意識し直す機会となりました。



# クラスだより



## 1くみ

### 「友達の姿をきっかけに」



2学期はみんなで体を動かすことを繰り返し楽しんでできました。ある日の食後に園庭で、2、3組が玉入れをやっていたので1組のみんなで見に行ってみることにしました。見ているうちに、なかよしグループの友達や自分の好きな色のチームに「頑張れー」と大きな声で応援する姿が増えていきました。すると、「1組もできるかな」とつぶやく人がいたので、1組でも玉入れをやってみることに。自分より高いカゴに玉を入れる難しさを感じながらも、カゴをよく狙って投げようしたり、たくさん玉を投げたり、自分なりに試行錯誤しながら「たくさん入れるぞ」とやる気十分に取り組んでいました。2、3組の姿は1組からはとてもきらきらとして見え、自分たちも同じようにやってみたいという気持ちが生まれ、少し難しいことも面白がりながら取り組むことができたのではないかと思います。

また、別の日に1組が園庭で「フルーツポンチ！」を踊っていると、2、3組の友達が見に来てくれました。一緒に踊ってくれたり、終わった後に声を掛けてくれたりすると、とても嬉しそうな様子があり、1組だけで踊っている時には感じなかった誰かに見てもらう嬉しさを味わっているようでした。運動会が近くなるにつれ、いろいろなところから聞こえる「音」や「声」をきっかけに1組のみんなも自然とその場に集まり、他クラスの友達の姿を目にしたたり、真似して動いてみたりすることが多くなりました。お互いの姿を見合う中で、友達に見てもらう嬉しさを感じたり、友達を応援する気持ちをもったりすることに繋がったのではないかと思います。

運動会ではあたたかい応援をありがとうございました。当日までの中で運動会という行事があることを知り、当日、実際に大勢の人がいる中で楽しさや戸惑いなどそれぞれの感じ方をしながら参加していました。3歳児クラスとして普段とは違う一日の行事でしたが、その違いを全身で体感し、一人一人がその時に見せてくれた姿やその時に感じた気持ちがこれからの遊びや育ちにとって大切なものになると実感します。一人一人が運動会で感じたことがこれからの遊びへ繋がっていくよう支えていきたいと思っています。

## 2くみ



### 「たくさん笑う毎日から」

運動会ではあたたかな雰囲気をつくってくださいますありがとうございます。

2学期の祭りごっこからつながって『お祭りマンボ』の歌はどうかと尋ねたところから始まりました。親しみやすく「わっしょいわっしょい」とつつい声にしたくなるような歌でもあります。この曲が流れるとこどもたちは、思わず「わっしょいわっしょい」と賑やかに踊り始めました。それから踊り方もみんなで決めました。2組にとって大好きな曲になり、それならば運動会でも踊ろうということになりました。それが運動会までの過程です。幼稚園では「今のこどもに必要なこと」を大切にして、環境を整えたり、計画したりしています。運動会があるという目的をもって、それに向かって進めることも時に必要な経験です。それと同じくらい今こどもたちが面白がっている、だから運動会でもしようということが大切のように思います。

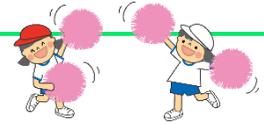
さて、『お祭りマンボ』が流れるたびに、また、誰かが口ずさむたびに笑いが起こっていた毎日ですが、2組の人たちと一緒に過ごしていると、よく笑う姿があります。あのね～とおうちでの出来事を話題にしてふふふと笑う姿や、友達と一緒に遊ぶ中で面白いことに出合ってわははと笑う姿、創り上げた喜びに、にんまりと笑う姿などいろいろな笑いがあります。ある人が笑っていると、わらわらと人が集まって同じ世界に浸ろうとします。そして笑いが大きくなります。しあわせですね。

今井和子さん（子どもとことば研究会）は、「笑いはまちがいなく、人に伝染する。共に笑うことで『この人たちと一緒にいるって楽しい』という幸福感を味わうことができる」と語っています。こどもは小さいことを大きく喜ぶ天性の楽道家であり、こどもの未来は笑いからスタートするそうです。さらに、遊びに熱中することや笑うことが最も効果的な癒しであり、健康につながっていること、体や心を笑いで揺らすことの大切さも伝えています。

幼稚園は、しあわせなことに、笑いがいつもそばにあります。こどもの笑いやユーモアをどれほどに笑えるか、面白がれるかは、大人の心のバロメーターになりそうです。ユーモアのセンスを磨くとともに、こどもたちを見習ってよく笑う身近な大人でありたいです。こどもたちにもっと好きになってもらえるように…！

### 3くみ

#### 「やさしさと自信」



3組ではこの1ヶ月、運動会で一緒に活動したチームや、学級のみんなと活動する中で、いろいろな経験を積み重ねてきました。運動会当日、晴れやかな表情で終始楽しんでいた3組の姿が心に残っています。それに至るまで、またその後の生活の中で素敵だなと感じた3組の姿を紹介したいと思います。

あるチームの「みんなであそぼう！」のコースを作っている時のことです。作ったお話から具体的に遊び方を考えていく中で、いろいろなことを考えました。「2組さんはできたけど、1組さん怖くないかな?」「ここに誰か(3組が)いたら安心してできるかも」遊びを「お試し」としてやってみて、感じたこと、考えたことを話し、より良くしようとする姿でした。どのチームも試して考えて、を繰り返した充実した時間でした。

運動会後のある日のことです。運動会で見た保護者リレーをきっかけに、3組でもリレーをやってみることにしました。赤白に分かれて取り組む中で、思い切り走る人、一生懸命応援する人など、白熱する姿がありました。そんな中、気持ちが少し落ち込んでいて力を出せないでいる人がいました。しかし、同じチームの人は誰も責めたりはしませんでした。ある人は「○○ちゃんなら大丈夫だよ」と声をかけていました。自分の都合や気持ちを言葉にして押し付けるのではなく、相手の気持ちになって、どうしたらいいか考えて言葉をかける姿でした。

運動会当日はもちろん、前後の過程の経験が自信になり、その自信が気持ちのゆとりや他者へのやさしさにつながっていると感じます。運動会后、降園前に「かっこよかったでしょ?○○さんの○○(みんなであそぼう!の役)もよかったね」と職員に話す人がいました。自分自身のやり遂げた感覚もありながら、友達の素敵な姿を見つけているところが印象的でした。運動会までの日々、そして当日を楽しい気持ちで過ごすことができたからこそその言葉だったのではないかと思います。これからも楽しみながら、たくさんの思い出と経験を作る残り半年ほどの幼稚園の生活にしていければと思います。